

内閣総理大臣賞（最優秀賞）

私の夢と大切な水

宮崎県

延岡市立恒富中学校 三年

永谷 和希

私は将来、和牛繁殖農家になろうと思っている。繁殖農家の仕事は母牛の世話をして、良い子牛を産ませ市場に出荷することだ。良い和牛を育て、和牛のオリンピックに出場すること、品評会に参加して良い成績を取ることも私の夢である。私がこの様に考えるのは、祖父の影響が大きい。私の家は、稲作と和牛の繁殖農家をしていて、現在も五頭の母牛と三頭の子牛を飼育している。私自身も幼いころから祖父の手伝いをしてきた。祖父の育てた子牛は百万円以上の値をつけたこともあり、いつか祖父を超える繁殖農家になることが私の目標である。良い牛を育てるために大切なのは、日々の餌やり、手入れ、良い健康状態を保つことだと思っている。私の家では、地下四十三メートルから地下水を引き、除去装置を使つてろ過した軟水を、家族も牛も飲んでる。この水と、それを利用して育てた米や野菜のお陰か、私自身も大変健康で、小学校・中学校を通して、無遅刻、無欠席で過ごせている。人間同様、牛にとつても、良い水と安全な餌が大切なことは言うまでもない。特に、牛はしゃべることができないから、人間が良い水と餌を選んで与えることが大切になってくる。牛の餌は牧草と稲わらだ。稲わらは、もちろん田植えをして米を育て、収穫した後のわらである。米や牧草を育てるためにも、安全な水は欠かせない。また、日光や雨も農業にとっては必要不可欠のものである。まさに水は植物・動物の命の源だと思う。

水の循環について学び、調べてみると、地球上の水の総量は、およそ四十億年前からはほとんど変わっていないという。日本は豊かな水資源に恵まれていて、蛇口を開けば安全な水が出てくるのが当たり前だが、これは決して世界の常識ではないことを忘れてはいけない。日本人は飲食・入浴・洗濯・水洗トイレなどで、一人当たり一日約二百九十リットルもの水を使っているそうである。その一方で、世界では約七億人の人々が生きていくために必要最低限の三リットルの水すら手に入らず苦しん

でいるという。さらに調べると、実は、日本は国土が狭く人口が多いため、国民一人当たりの水資源量は世界平均の二分の一程度しかなかった。この現実をしつかり受け止め、私たちは、水の大切さをもう一度考え直さなければならぬ。無駄をはぶく意識もしつかり持って生活しなければいけないと思う。私たちが使った水が循環し、世界のどこかの人のためになると思うと、水をきれいな状態で循環させることも考えなければいけないだろう。

私の通う学校では、通学中のごみ拾い運動を行っている。小さな活動だが、もし日本中の中学生がこの活動をして、一人一つのごみを拾うだけでも、一日約三百二十二万個のごみがなくなることになる。毎日行えば、その三百六十五倍だ。小さな活動も、決して小さなことではなく、と思う。歯磨きの時に水を流しっぱなしにしないことも同じだろう。日本中の家庭が、生活用水の節水を行ったり、生活排水を少しでも減らし、きれいにする努力を行ったりすることの大切さをあらためて考えさせられる。今、プラスチック製品の減量が進められ、私たち中学生でも買い物にマイバックを持参するようになった。水を守るためには、水だけでなく、空気や土壌も守らなければならない。それは、自然環境のすべてが連鎖しているからだ。

和牛繁殖農家になるという夢の実現のためにも、私は環境問題に興味を持ち続け、水を守るために自分にできる小さなことをやり続けようと思っている。将来、私が育てる牛も、おいしい井戸水で健康に育ってほしい。五年に一度の和牛オリンピックで、前回は鹿児島県に総合優勝を奪われたが、「宮崎牛」がずっと日本一を守り続けられるように頑張りたい。